

順雲山 光照院 普仙寺

# 普仙寺だより

発行  
浄土宗  
順雲山  
光照院  
普仙寺  
第296号  
令和3年  
3月8日



本堂西側に涅槃図を掛け、お釈迦様のお涅槃をお参りします

普仙寺諸行事  
のご連絡

◎ 毎週土曜日

★ 土曜礼拝

感染防止対策をして行います。

◎ 三月二十日 土・祝

★ 春彼岸法要

住職と副住職で勤めます  
参拝不要です。

塔婆は二十一日以降  
取りに来て下さい。

★ 春の茶会

中止します。

★ 牟呂お堂巡り

中止します。

◎ 四月八日 宋

★ 月並法要・中止します。



檀信徒会館の中庭、笕カケイを新しくしました

普仙寺檀信徒会館の中庭

△云館の笕

の手水鉢に設置している笕  
かけい)を新しくして頂  
きました。



鐘楼の東側塀沿いの桜  
「初御代桜・ハツミヨザクラ」

初御代桜ハツミヨザクラ

普仙寺の桜

鐘楼東側駐車場には、  
が咲いています。寒緋桜カ  
ンヒザクラと啓翁桜ケイオ  
ウザクラを交配した品種で  
す。

住職の短歌

令和2年に詠んだ短歌の  
続き 前回は令和3年1月  
号)を掲載します。

秋の日に行くは金戒光明寺  
道場僧に詠唱を説く

二度咲きの紅花常葉万作が  
思いがけずに我の目の前

君は言う細葉終南天の黄色  
い粒の花が大好き

害有りと誤解を受けた蜜源  
花それが背高泡立草だ

岐阜羽島駅の近くの田んぼ  
では稲刈り前とあとの風景

十月の小糠雨降る参道に白  
い茶の花そっと咲いていた

一息に石段上りその脇に黒  
鉄鵜の赤い実を見る

誘惑の匂い唐種招霊が二度  
咲きをする令和の二年

咲き始め阿弥陀堂前冬桜令  
和二年の容姿は如何

犬蓼は淡いピンクの小花草  
糸組紐の模様のようにだ

ひとつあり南京黄櫨の白い  
種これから見える秋冬のも  
と

この秋の新たな気付き目の  
前に金木犀の花の絨毯

紫の斑模様の杜鵑草今年は  
咲いた秋の参道

犬黄楊の黒い小丸の実が光  
る膝を屈めて君は見ていた

粗榧の緑色した団栗が出番  
を待って力入れてる

参道の垣根の中に千両の赤  
い実を見る令和の二年

丸々と赤く育った冬青の実  
足を留めてしばし鑑賞

新門の脇に立ちたる真弓の  
木薄紅色の四角い果実

石蓆の黄色い花が咲き出し  
た君と歩いた秋の細道

つややかに赤く熟した実葛  
秋のこの日をずっと待って  
た

跳ねながら桜紅葉の下通る  
園児は歌うフニクラの歌

綾錦南京黄櫨の紅葉色思い  
通りに今年も会えた

秋深く苗代葉黄の白い花甘  
い香りに君が喜ぶ

鮮やかな猩々緋色楓の葉一  
緒に見たねあの年の秋

莢蒨の光るは赤い小粒の実  
人出の増えた午後参道

山寺の櫺落ち葉の石段を一  
歩一歩と降りた夕暮れ

晩秋の朝陽に映える大紅葉  
色の移ろい綾の紋様

錦木その鮮やかな赤がい  
い今年も会えた情熱の色

見上げれば黄色に変わる公  
孫樹の木令和二年の秋も深  
まる

廟堂のきざはしの下紅葉色  
京都の秋の深さ体感

きりりと

3	2	1	先祖代々または戒名 塔婆料一霊三千五百円)	施主氏名	住所 (町内名でも可)

令和三年春彼岸会 塔婆申込用紙  
 本堂内の申込箱へ入れるか、または郵送)  
 注意 塔婆回向を希望する方のみお申込下さい。  
 封筒読み上げ回向の方は、彼岸回向封筒を  
 お使い下さい。

きりりと

寺行事案内

☆毎週土曜日

朝八時三十分～九時

どようらいはい

土曜礼拝

礼拝を含むお勤めです。

コロナウイルス感染拡大

防止対策をして行います

☆三月二十日 土・祝)

はるひがんえ

春彼岸云

住職と副住職とで勤めま

す。参拝不要です。

檀信徒各家のご回向を致

します。

ご回向の方法に二種類あ

りますので、どちらかひ

とつをお選び下さい。

①封筒読み上げ回向

彼岸回向封筒に記入され

た先祖代々名または戒名

を読み上げて、ご回向し  
 ます。回向料はお気持ち  
 です。

②塔婆回向

先祖代々名または戒名の

塔婆にてご回向します。

上記の申込用紙にて事前

にお申込下さい。回向料

は一霊三千五百円です。

塔婆は二十一日以降

取りに来て下さい。

☆三月二十日 土・祝)

春の茶会

中止します。

普仙寺だより」二九六号

発行日 令和三年三月八日

発行所 普仙寺

発行者 加藤良光

〒四四一、八〇九三

豊橋市牟呂中村町六一五

電話

〇五三二、三一、七四五七